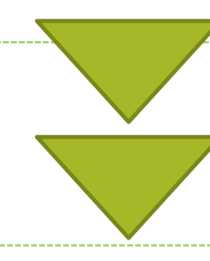


# リハビリテーション学部における産学連携による教育・実践モデルの構築

## 2021年度までの産学連携の取り組み

- 2019年度より学部の事業計画として開始
- 「地域における健康促進・疾病予防に関する学び」を主体的に取り組める機会の構築・発展を目的に、産学連携事業を展開
- 「心と身体の健康」をテーマにしたYouTube動画の作成・配信、オンライン運動教室、湖西市店舗での身体機能・認知機能に関する健康教室などを実施してきた



## 2022年度の行動目標

- 企業との連携事業を通して、リハ学部各学科の専門性を地域に提供し、健康促進・疾病予防などの地域密着型支援を行う
- 学生主体によるアクティブラーニングの形とし、新しい教育・実践のモデル構築を図る
- 企業、地域に本学のリハビリテーション専門職の学びについて広報する

## ① 企業・学生・教員による連携事業の実施

- 店舗でのイベント開催（作業療法学科・言語聴覚学科）

杏林堂薬局と湖西市などで実施中のBaaS事業実証実験に「店舗でのイベント開催」という形で参加した。

### <内容> 「測定」を中心とした体験型

学生主体で、下記の測定と結果に応じた一次予防の指導を実施した。

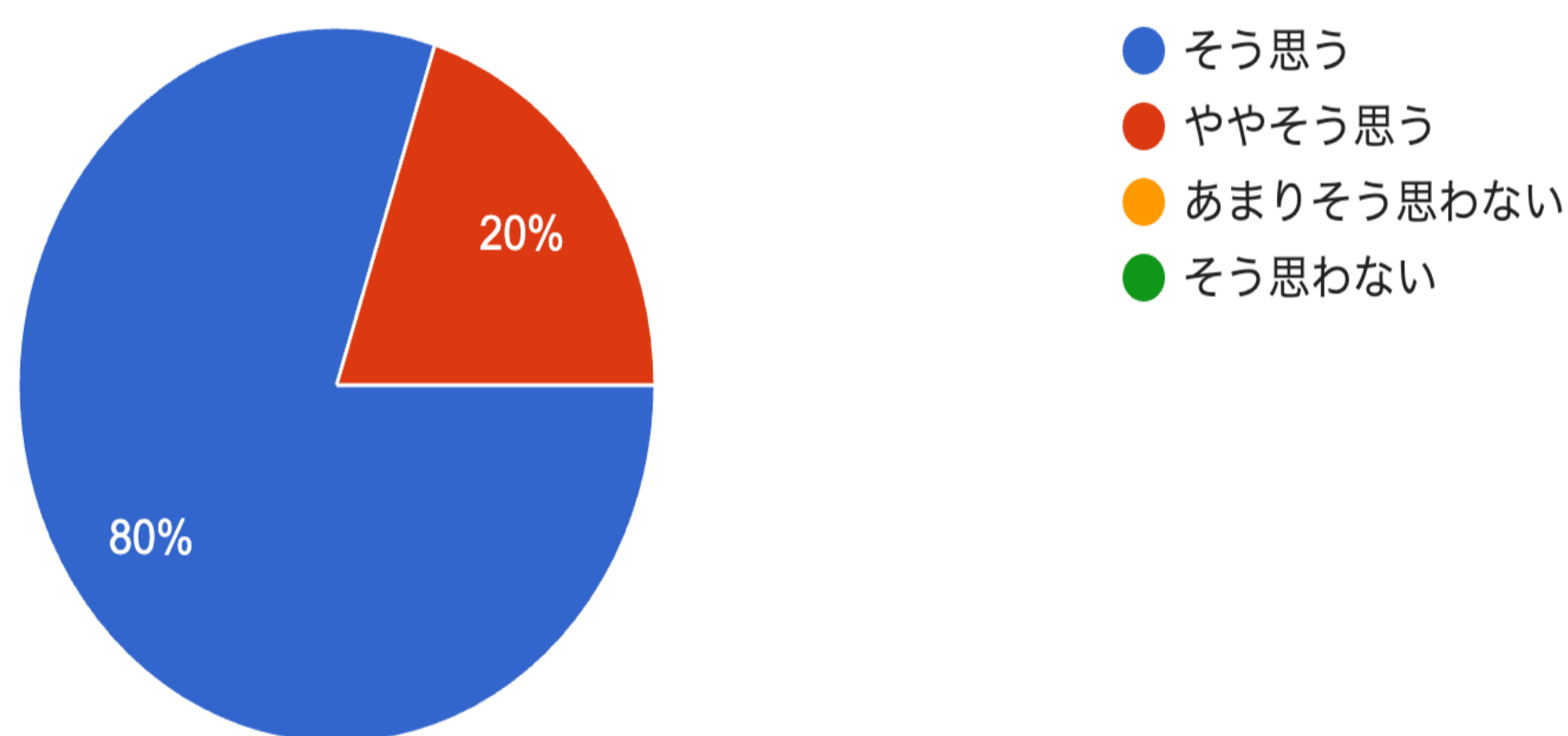
言語聴覚学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>高次能、口腔運動、聴覚、発話に関する検査を実施</li> <li>地域からの参加者 12名</li> <li>学生 4名、教員 2名参加</li> </ul>
作業療法学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>抑うつ尺度、生きがい意識など日常生活のQOLに関する評価を実施</li> <li>地域からの参加者（1回目）13名、（2回目）9名</li> <li>学生のべ 7名、教員 2名参加</li> </ul>



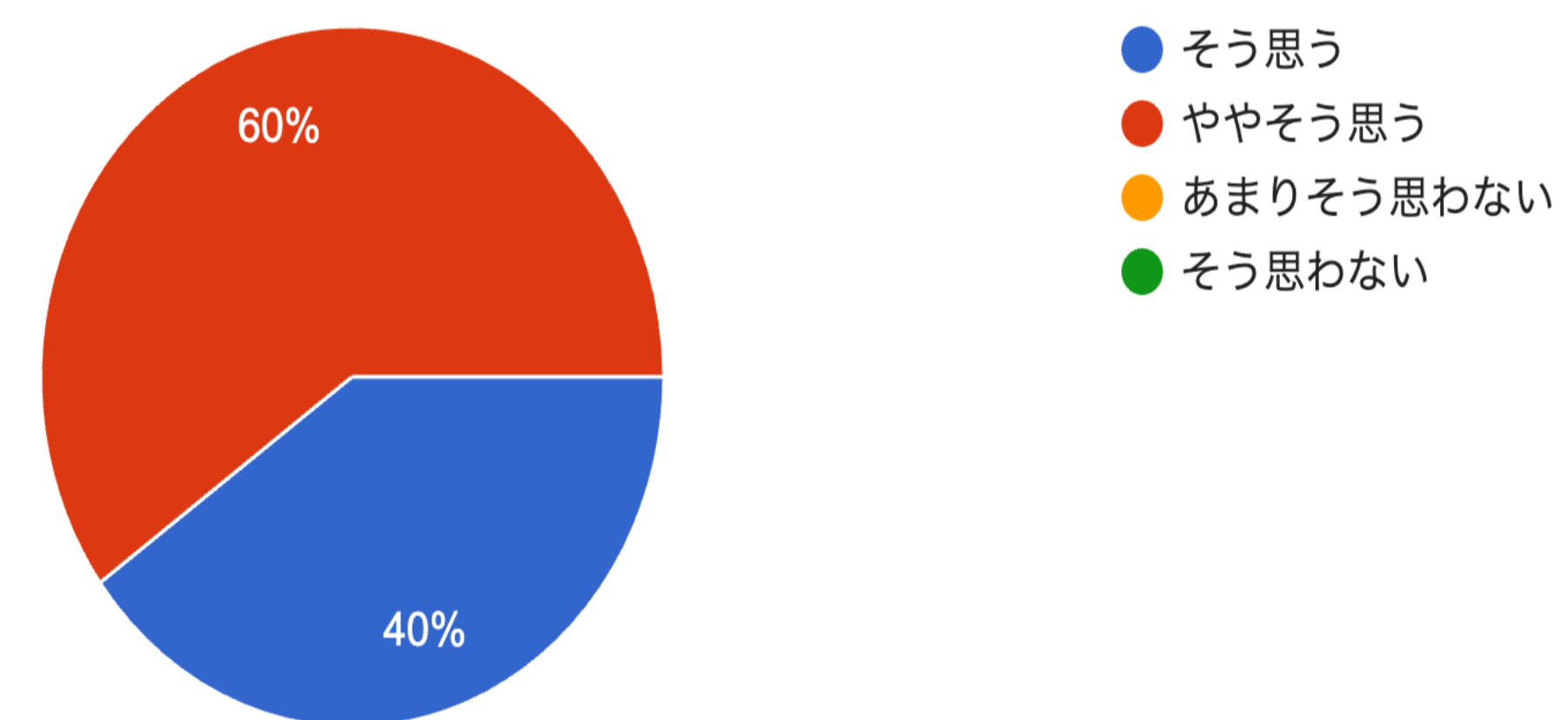
- <イベント参加者の感想>
- コロナの影響で地域の集まりが減ったため、集まるきっかけができて楽しい
  - コロナ禍で外出が減ったため、自分の健康を確認する良い機会になっている
  - 今までやったことのない検査が多く、面白い

### <参加学生の感想(アンケートより)>

①-1) この企画に参加したことに満足していますか？  
10件の回答



②-1) この企画に参加したことで、大学での学びの意欲が高まりましたか？  
10件の回答



### (自由記載 (一部抜粋))

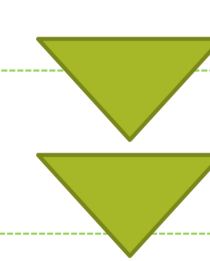
- コミュニケーションの取り方を学べた
- 学内だけでは学ぶことができない、貴重な経験ができた
- 初めて検査等を行っていい経験ができた
- 参加者が嬉しそうにお話ししてくれて嬉しかった

### (自由記載 (一部抜粋))

- まだ知識不足な点や課題が多々あることを実感した
- 大学での勉強が活かされた
- より学ぼうという意欲がでた
- 今回実施した評価について、もっと学んでみたいと感じた

## ② 新たな連携の可能性の検討

新たな連携事業の可能性を検討するため、杏林堂薬局と磐田市で共催しているイベントを視察し、担当者らと情報交換を行った。その中で、過去に本事業で行ったイベントについて「知っている」「他の市町でも実施してもらえる可能性はあるのか」等の意見をいただいた。



## 結果・今後の課題

- 企業との連携を通じて、コロナ禍で学外での社会経験が制約されていた学生に対し、学習意欲につながる教育・実践の場の提供につながった
- 過去の連携事業の実績、広報活動が、次の活動につながるきっかけとなるような情報交換を企業・行政と行うことができた
- 企業との連携事業の広報を通して、リハビリテーション専門職の周知を広げていくとともに、リハ学部の特色ある教育・実践機会を学生募集につなげていけるよう、検討を図っていきたい。

## 《 プロジェクトメンバー 》

代表者	飯田妙子（リハビリテーション学部作業療法学科・産学連携推進リーダー）		
分担者	新宮尚人（リハビリテーション学部長）	柴本 勇（リハビリテーション科学研究科長）	
	矢倉千昭（理学療法学科）	泉 良太（作業療法学科）	佐藤豊展（言語聴覚学科）
連携機関	尾上智彦 長嶋桃子 酒井英彰 波多江早織（以上、杏林堂薬局）		
協力者	藤田さより（リハ学部教務委員長） 栗田洋平（作業療法学科） 佐藤綾華（言語聴覚学科） 作業療法学科・言語聴覚学科学生		